

i73[®] *PRO* ONE



73 スタイルのクラスAプリアンプを装備した
2 x 4 USB-C オーディオインターフェイス

日本語マニュアル



FULL ANALOG
EXPERIENCE

初めに	3
安全利用のための注意	4
概要	5
同梱物	6
さあ、始めましょう：	
ハードウェア	7
アカウントの作成	10
macOS のソフトウェア	11
Windows のソフトウェア	16
Output Level Calibration（出力レベル調整）	21
Full Analog Experience（フルアナログ体験）	22
Heritage Audio MIXER（ミキサー）	23
Channel List（チャンネルリスト）	29
Applications（アプリケーション、用途別接続例）	30
System Requirements（システム条件）	34
仕様	35
トラブルシューティング（問題を自己解決するためのガイド）	36
保証範囲	38
ソフトウェアライセンス契約	39

© 2024 Heritage Audio S.L. は、本マニュアルに含まれるすべての情報および図面の著作権を独占的に所有しており、書面による許可なしにいかなる方法でも複製、再生、または一部もしくは全部を第三者に開示することはできません。日本語版である本マニュアルは Heritage Audio S.L. の許可を受けて株式会社フックアップが作成したものです。

Heritage Audio は、通知なしに仕様を変更する権利を留保します。本マニュアルの情報は可能な限り、信頼できる内容として正確に記載することに努めています。しかし、これはその正確性を保証するものではなく、情報の使用に起因するいかなる直接的または間接的な損失や損害に対して、当社はその正確性、誤りまたは省略について責任を負いかねます。

本マニュアルで説明されているソフトウェアは、ライセンス契約または秘密保持契約の条件の下で提供されます。ソフトウェアライセンス契約には、その合法的な使用条件が規定されています。Heritage Audio S.L. の明示的な書面による許可なしに、本マニュアルの一部を複製または送信することは、購入者の個人的な使用以外の目的では禁止されています。

本マニュアルに引用されている他のすべての製品、ロゴ、会社名は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

i73[®] PRO ONE をお求めいただき、誠にありがとうございます。本製品は、15 年になる Heritage Audio の歴史の中で取り組んできた最大の技術的挑戦です。10 人以上のプロフェッショナルエンジニアとミュージシャンによる 3 年以上の開発期間を経て、私たちが想像する最高のホームレコーディングプラットフォームを提供します。

i73[®] PRO ONE は、ミュージシャン、プロデューサー、およびオーディオエンジニアに、1970 年代初頭から音楽制作をインスパイアしてきた大切なアナログ体験への容易な道を提供することを目指しています。i73[®] PRO ONE は、Heritage Audio のクラシックな 73 スタイルのプリアンプと同じクラス A トランスフォーマーバランス回路を採用しており、ユーザーが i73[®] PRO ONE からコンピューター上の DAW トラックに直接録音する際、そのクラシックマジックと雰囲気を実感できます。

ただし、この 73 スタイルのクラス A プリアンプは、私たちが求めていたフルアナログ体験への第一歩に過ぎません。ローレイテンシーのモニタリングミキシングコンソールは、一から開発されて、ユーザーが必要なものを常に聴けるようにします。i73[®] PRO 2 のモニターミックスまたは独立したヘッドフォンキューのいずれかを通じて、Heritage Audio MIXER 内で、ユーザー独自設定のミックスを提供します。

そして最後に、すべての i73[®] PRO インターフェースには、私たち自身のアウトボード機器と、私自個人の機器コレクションからの非常に特別なビンテージユニットを慎重にモデリングした DSP 処理のレコーディングエフェクトが多数搭載されています。このコレクションは、私の音楽人生を通じて絶え間なく成長しています。

私たちは、この新しい録音環境を楽しんでいただけることを願っています。この環境は、レコーディングスタジオの黄金時代をすべての家庭で可能な限り、それに近いものを提供することを目的としています。

Peter Rodríguez

CEO

Heritage Audio - マドリード、スペイン

注意事項は以下に限定されるものではありません：

1. すべての指示を熟読の上、ご理解ください。
2. 本デバイスを使用する際は、常に指示に従ってください。
3. 本デバイスを清掃する前に、必ず USB-C および DC 電源ケーブルを取り外してください。清掃時は柔らかく乾いた布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、シンナーなどの溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー、または濡れすぎた布も使用しないでください。
4. 浴槽、シンク、プールなど、水や湿気のある場所での使用を避けてください。
5. 本デバイスが不安定または倒れやすい場所に設置しないでください。
6. 重い物を装置の上に置かないでください。本デバイスを熱の出る場所や通気の悪い場所に設置しないでください。
7. 本デバイスを開けたり、何かを挿入したりしないでください。火災や感電の原因となる可能性があります。
8. 本デバイスの上または中に液体をこぼさないでください。
9. 本デバイスは常に資格のあるサービスセンターに持ち込んでください。自分で開けると保証が無効になります。不適切な再組立ては感電やその他の不具合を引き起こす可能性があります。
10. 雷を伴う激しい嵐の際には、本デバイスの使用を中止してください。感電の原因となる可能性があります。
11. 本デバイスを直射日光にさらさないでください。
12. ガス漏れが検出された場合は、本デバイスの使用を中止してください。
13. Heritage Audio は、不適切な操作によって発生した損害やデータの損失について責任を負いません。

i73[®] PRO ONE は、内蔵のピュアクラス A トランスフォーマーカップルの 73 スタイルプリアンプを搭載した初の USB-C オーディオインターフェースです。これは、Heritage Audio のクラシック 73 スタイルプリアンプと同じクラス A トランスフォーマーバランス回路を採用しており、そのクラシックマジックと雰囲気を持つトラックを、i73[®] PRO ONE から直接コンピューターにレコーディングすることで実現します。

Heritage Audio の全 73 スタイルプリアンプと同様、入力に 3 つの選択肢が用意されています。最大 70dB のゲインを持つマイクプリアンプでボーカルレコーディングをする場合でも、速くてダイナミックな JFET DI を通じてエレキギター / ベースを収録する場合でも、クリーンなライン入力を使用する場合でも、i73[®] PRO ONE はどんな信号でも本物のスタジオ品質で DAW に信号を送ることができます。

全入出力を簡単にコントロールするために、ローレイテンシーのモニタリングコンソール (Heritage Audio MIXER / ヘリテージオーディオミキサーと呼びます) が一から開発されました。このことで、i73[®] PRO ONE のモニター出力もしくはヘッドフォンキューを通じて、必要なものを常に聴くことができ、各ミックスはミキサー内で独自に設定できます。

最後に、i73[®] PRO ONE には強力な DSP が搭載されており、当社のアウトボード機器やビンテージ機器コレクションをモデルにした包括的なツールセットを収録中に実行できます。これらの独自の DSP パワードオーディオエフェクトは、ネイティブ形式でも提供され、簡単に装填して呼び出せる機能があり、すべての方がトラックを DAW に (加工済みおよび未加工の両方で) 納め、モダンホームスタジオのワークフローを活用して作業を完了することができます。



1 x i73 PRO[®] ONE 本体

1 x 12V 2.5A ユニバーサルパワーサプライ

1 x IEC 電源ケーブル EU 仕様

1 x IEC 電源ケーブル US 仕様

1 x USB-C to USB-C ケーブル

1 x USB-C to USB-A ケーブル

同梱物が不足の場合は、弊社サポートまでご連絡をお願いします：
<https://hookup.co.jp/support/>

HARDWARE

1.- フロントパネル:



- 1** Hi-Z 入力: ハイインピーダンス楽器 (エレキギター、ベース、ビンテージシンセサイザー / キーボードやビンテージドラムマシン、エフェクトペダルなど) のためのモノラルジャックの入力です。この Hi-Z 入力は、i73 PRO[®] ONE の JFET DI を通じて、プリアンプとトランスを経由します。一般的な標準プラグ (1/4 インチ TS) のアンバランスケーブルをこの DI 入力に接続すると、LINE および MIC 入力より優先して DI が入力として選択されます。この選択は、DI LED が点灯することで示されます。
- 2** ステレオヘッドフォン出力: 標準ステレオ (1/4 インチ TRS) 仕様のステレオヘッドフォン出力です。1/4 インチ TRS プラグから TS ミニプラグへの変換ケーブルを用いることで、この出力をアナログデバイスへの CV/Gate 信号の送信に利用できます。

HARDWARE

2.- トップパネル:



- ① 出力アッテネーター (OUTPUT) : MIC および D.I. の信号を 0 から無限大まで減衰し、LINE では +10dB から無限大まで減衰し、0dB のラベル表示の通りに機能します。2 番目の OUTPUT (右側) は LINE 2 のみに作用します。
- ② 入力ゲインノブ: MIC と D.I. では 45dB から 70dB まで、LINE レベルでは -5dB から 20dB までのステップで入力ゲインを設定します。
- ③ ファンタム電源スイッチ (+48V) : +48V のファンタム電源を有効にします。
- ④ パッドスイッチ (PAD) : 入力トランスフォーマーの前段で 20 dB の低減を加えます。
- ⑤ フェイズスイッチ (PHASE) : 信号の位相を 180° 反転させます。
- ⑥ モノスイッチ (MONO) : 信号をステレオからモノラルに変換します。
- ⑦ ミュートスイッチ (MUTE) : 出力を遮断します。
- ⑧ ディムスイッチ (DIM) : 出力に 20 dB の低減を加え、モニターレベルを下げます。
- ⑨ エンコーダーノブ: 外側のノブはヘッドフォンの出力レベルを調整し、内側のノブはモニターの出力レベルを調整するデュアル仕様のノブです。
- ⑩ レベルメーター (LEVEL) : 5 セグメントのステレオ LED メーターです。Heritage Audio MIXER の操作で、入力レベルと出力レベル表示の切り替えが可能です。

HARDWARE

3.- 背面パネル:



- ① 電源入力 * (12VDC) : 付属のパワーサプライを接続します。
- ② USB-C コネクター : コンピューターと接続するための USB-C 端子です。
- ③ 電源スイッチ (POWER) : i73[®] PRO ONE をオン (○) またはオン (○) にします。
- ④ MIDI 入出力 : ミニ MIDI ポートで、CBL 202 Mini MIDI ケーブルを接続することで、2 つの MIDI 入力と MIDI 出力が利用可能になります。
- ⑤ モニター出力 (MONITOR L と R) : 1/4 インチ TRS バランス出力です。出力先の入力アンバランス仕様の場合、リングが切断された TRS プラグを接続に使用してください。負端子が浮いていない接続、例えば通常の TS プラグを使用した場合、スリーブのグランドにショートし、歪みを引き起こします。
このモニター出力はアナログデバイスに CV/Gate 信号を送るのに適していません。CV/Gate 信号を送る必要がある場合は、i73[®] PRO ONE のヘッドフォン出力を使用します。
- ⑥ コンボ入力 (INPUT 1) : XLR と 1/4" TRS 入力兼用のフルバランス入力ポートです。マイクを接続する際は、XLR コネクターを使用します。ライン出力信号は 1/4 インチの TRS プラグで接続します。定格レベルは +4dB です。
- ⑦ 入力 2 (INPUT 2) : ラインレベルのステレオ入力をする際の追加の 1/4" TRS 入力です。

* 電源プラグは、偶発的な切断を防ぐロッキングバレルコネクターです。プラグは半回転でロックし、信頼できる安全な接続を実現します。

さあ、始めましょう

i73[®] PRO ONE

ユーザーマニュアル

REGISTER YOUR UNIT

アカウントを作成します：

1. <https://users.heritageaudio.com/my-account> にアクセスします。

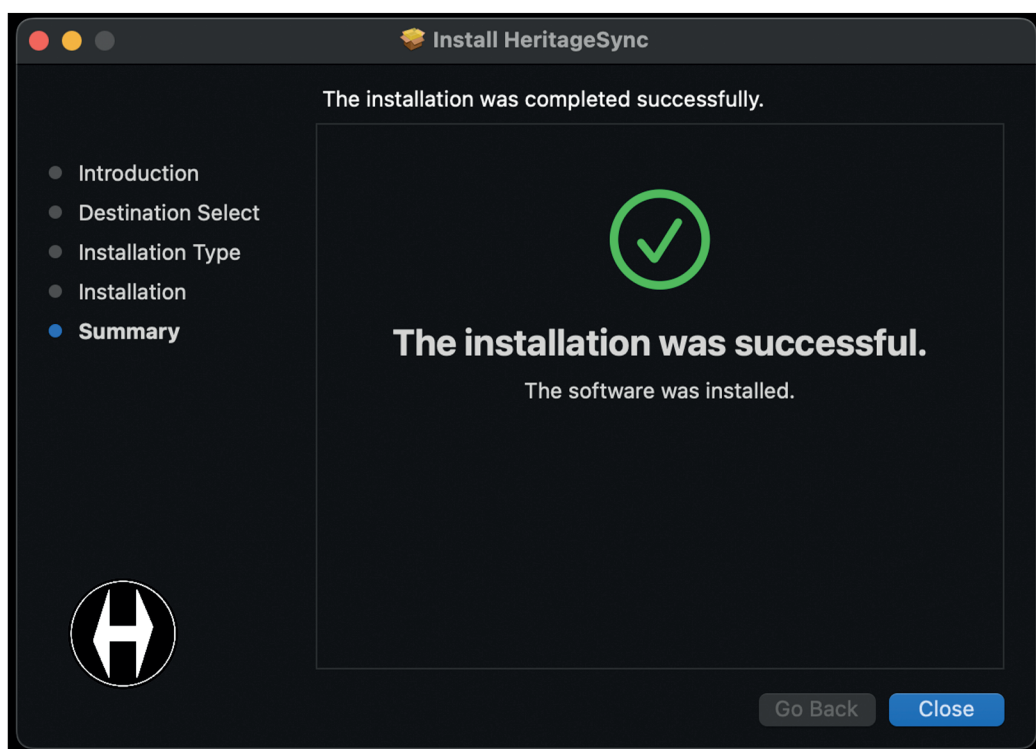
The screenshot displays two side-by-side forms on a light gray background. The left form is titled 'Login' and contains input fields for 'Username or E-mail*' and 'Password*', a 'Remember me' checkbox, a blue 'Log in' button, and a blue link for 'Lost your password?'. The right form is titled 'Create your account' and includes a sub-header 'Don't have an account yet? Create an account.' followed by input fields for 'Username*', 'E-mail*', and 'Password*', and a blue 'Register' button. Below the forms is a horizontal bar with the Heritage Audio logo, which consists of a stylized 'H' inside a circle followed by the text 'Heritage Audio'.

2. ウェブサイトの画面の指示に従って、アカウントの作成を完了します。

SOFTWARE

macOS 環境での HERITAGESYNC* TOOL のインストール方法：

1. <https://users.heritageaudio.com/my-account> にアクセスします。
2. ユーザー名 (username) とパスワードを入力してログインします。
3. ユーザーページから最新版の HeritageSync tool for MacOS をダウンロードします。
4. ダウンロードした .pkg ファイルをダブルクリックして展開します。
5. インストーラーを起動して、指示に従ってインストールを完了します。



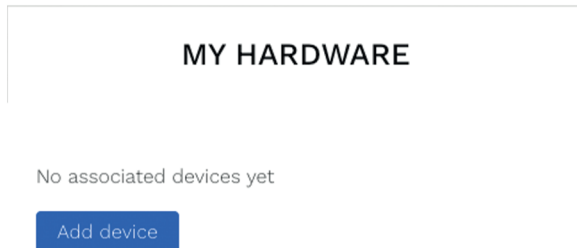
*HeritageSync は、i73[®] PRO ONE のソフトウェアとファームウェアを最新の状態に保つためのツールです。i73[®] PRO ONE をコンピューターに接続するたびに、HeritageSync は Heritage Audio MIXER と i73[®] PRO ONE のファームウェアに新しいバージョンがあるかどうかを確認し、新バージョンが存在する場合、それらを更新するように求めるウィンドウが表示されます。

Heritage Audio MIXER と i73[®] PRO ONE のファームウェアを最新の状態に保つことを強くお勧めします。このことで、i73[®] PRO ONE ですべての DPS 搭載プラグインが利用可能にできるだけでなく、新しい機能が実装されることもあります。

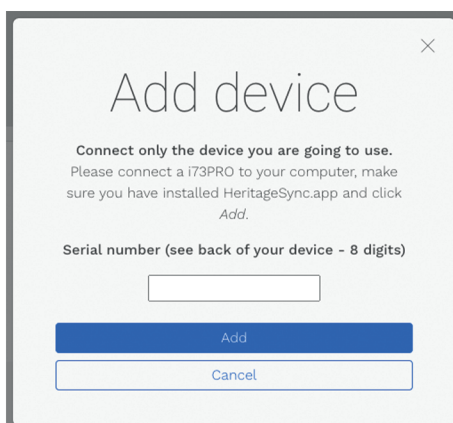
SOFTWARE

i73[®] PRO ONE の登録 :

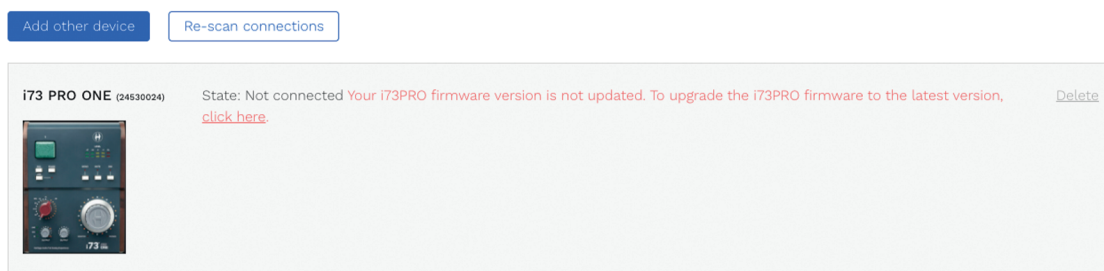
1. <https://users.heritageaudio.com> にアクセスし、ダッシュボード (dashboard) の MY HARDWARE (マイハードウェア) に移動します。



2. i73[®] PRO ONE をコンピューターに接続し、電源をオンにした状態で、“Add device” (デバイスの追加) をクリックします。すると HeritageSync tool がお手元の i73[®] PRO ONE を登録するための動作します。それに失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。



3. i73[®] PRO ONE のシリアル番号 (ユニットと底面に記載) を入力し、“Add” (追加) をクリックでします。

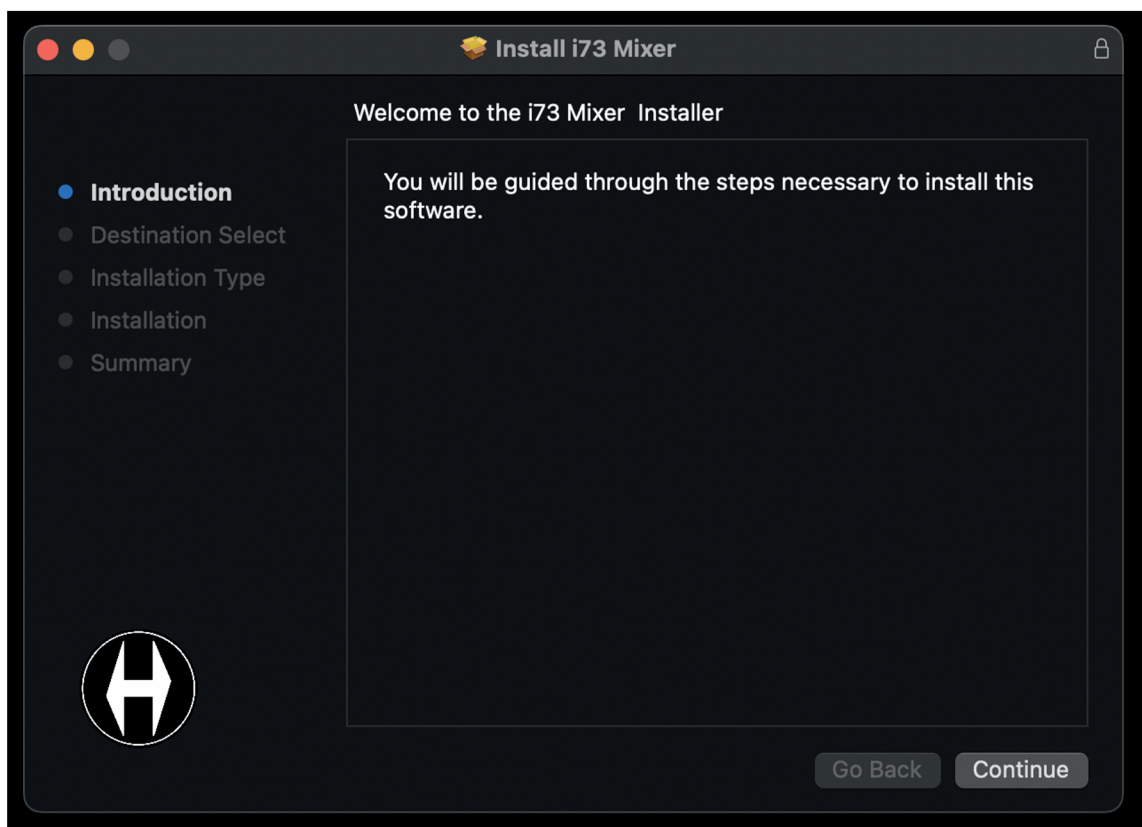


4. 以降に表示されるソフトウェアの情報に従って、登録を完了します。

SOFTWARE

macOS 環境での HERITAGE AUDIO MIXER のインストール方法：

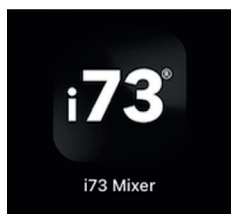
1. <https://users.heritageaudio.com/my-account> にアクセスします。
2. ユーザー名 (username) とパスワードを入力してログインします。
3. ユーザーページから最新版の Heritage Audio i73[®] PRO MIXER for MacOS をダウンロードします。
4. ダウンロードした .pkg ファイルをダブルクリックして展開します。
5. インストーラーを起動して、指示に従ってインストールを完了します。



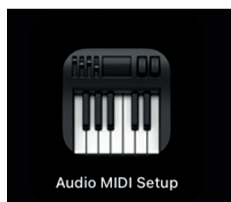
*macOS 環境では、i73[®] PRO ONE はドライバーをインストールすることなく、USB 接続することですぐに動作します。ただし、i73[®] PRO ONE の全ての機能と高度なコントロールを利用可能にするには、Heritage Audio MIXER のインストールを強くお勧めします。

macOS 環境での HERITAGE AUDIO MIXER の設定：

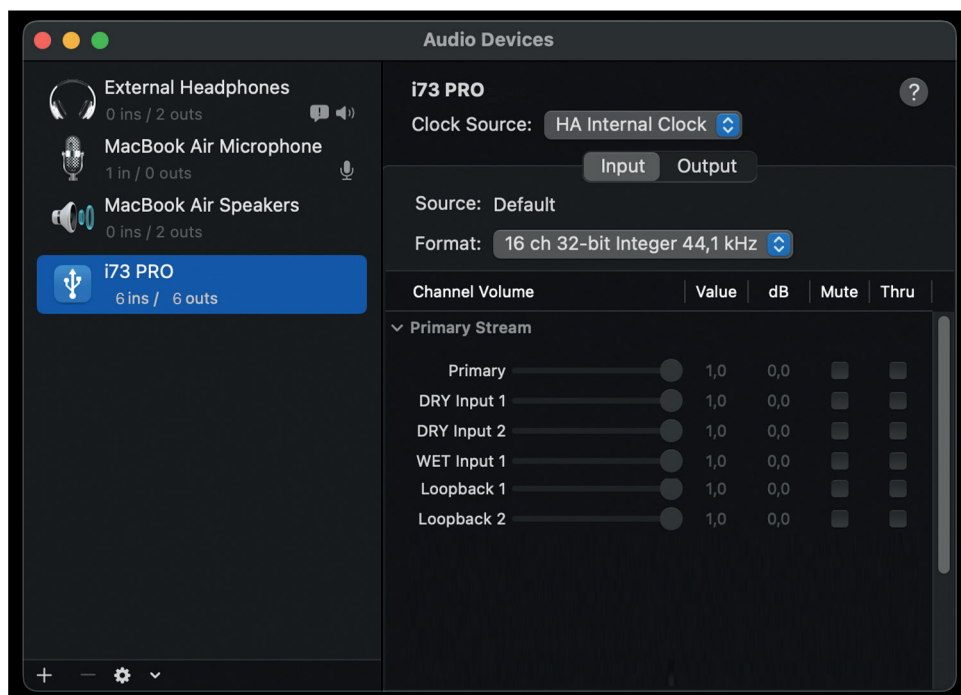
1. i73[®] PRO ONE をコンピューターに接続した状態で、Heritage Audio MIXER を起動します。



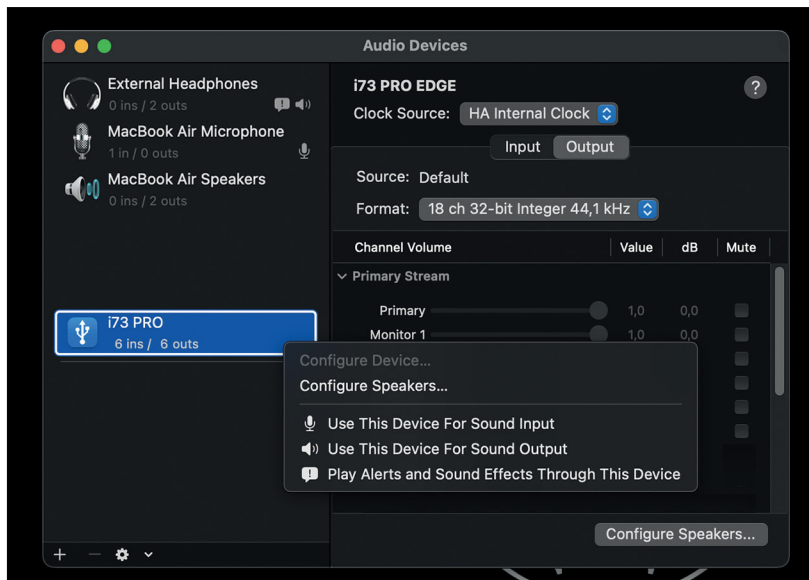
2. Audio MIDI Setup (macOS 標準の Audio MIDI 設定) を起動します。



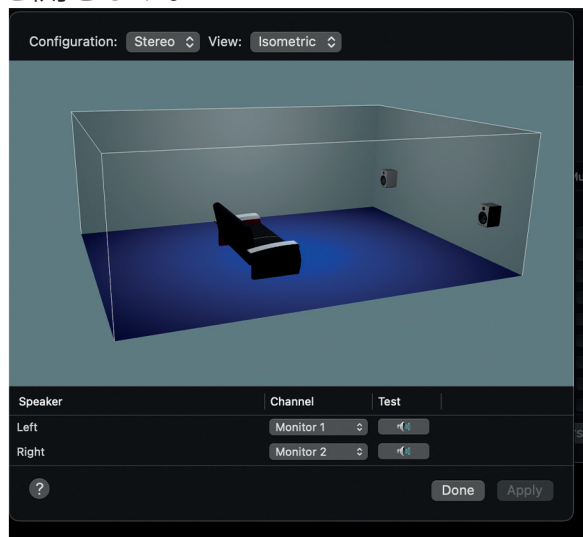
3. オーディオ装置ウィンドウの一覧に i73[®] PRO ONE が表示されていることを確認し、クリックで選択します。



4. オーディオ装置の一覧にある i73[®] PRO ONE を右クリックし、メニューからサウンド入力そして出力装着として選択し、使用可能にします。



5. コンピューターのループバックサウンド（コンピューターアプリケーションの音声）を Heritage Audio MIXER 内で制御したい場合は、i73[®] PRO ONE を選択した状態で「スピーカーを構成 ...」をクリックして画面を開きます。



6. 左右スピーカーのチャンネルをそれぞれ、Loopback 1 と Loopback 2 に設定して、「適用」ボタンをクリックします。

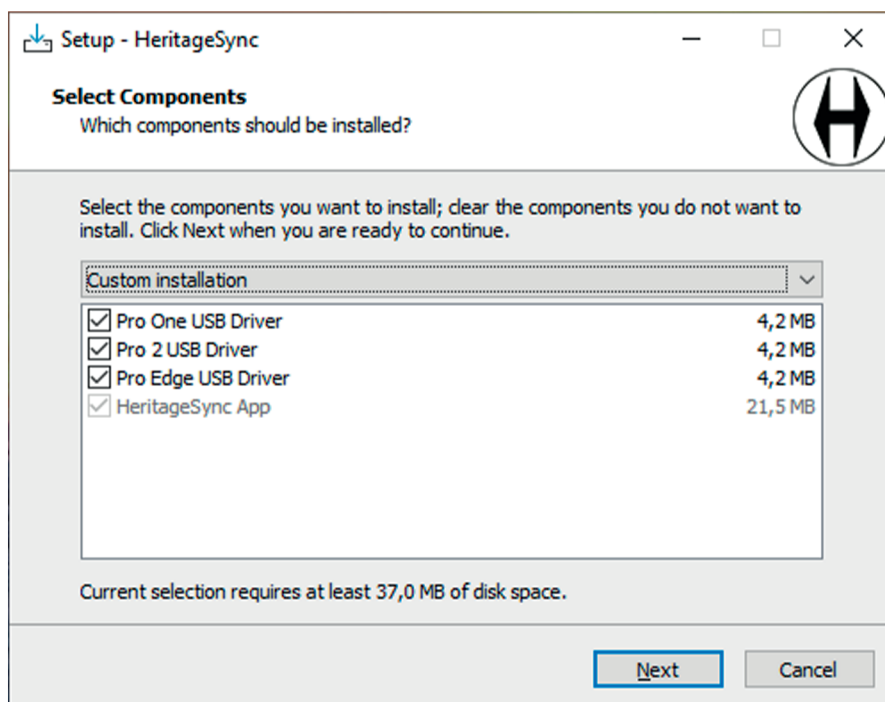
Speaker	Channel	Test
Left	Loopback 1	[Test]
Right	Loopback 2	[Test]

SOFTWARE

Windows 環境での HERITAGESYNC* TOOL のインストール方法：

重要：現在、Windows 環境でのご使用は、弊社サポート対象外となります。

1. <https://users.heritageaudio.com/my-account> にアクセスします。
2. ユーザー名 (username) とパスワードを入力してログインします。
3. ユーザーページから最新版の HeritageSync tool for Windows をダウンロードします。
4. ダウンロードした .exe ファイルをダブルクリックし、実行をします。
5. インストーラーを起動して、指示に従ってインストールを完了します。



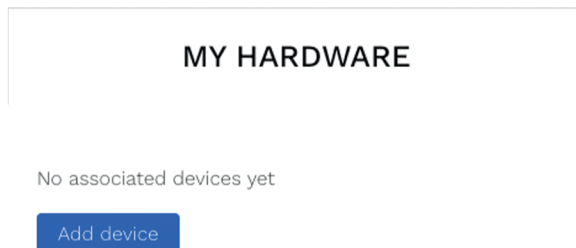
*HeritageSync は、i73[®] PRO ONE のソフトウェアとファームウェアを最新の状態に保つためのツールです。i73[®] PRO ONE をコンピューターに接続するたびに、HeritageSync は Heritage Audio MIXER と i73[®] PRO ONE のファームウェアに新しいバージョンがあるかどうかを確認し、新バージョンが存在する場合、それらを更新するように求めるウィンドウが表示されます。

Heritage Audio MIXER と i73[®] PRO ONE のファームウェアを最新の状態に保つことを強くお勧めします。このことで、i73[®] PRO ONE ですべての DPS 搭載プラグインが利用可能にできるだけでなく、新しい機能が実装されることもあります。

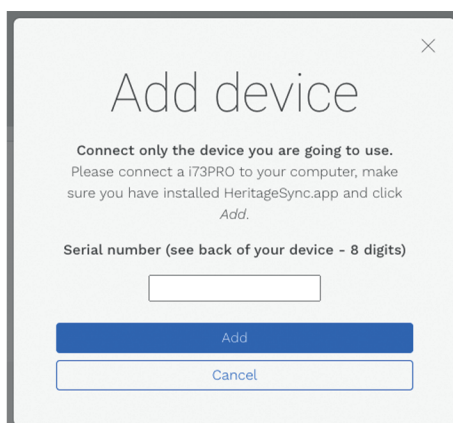
SOFTWARE

i73[®] PRO ONE の登録:

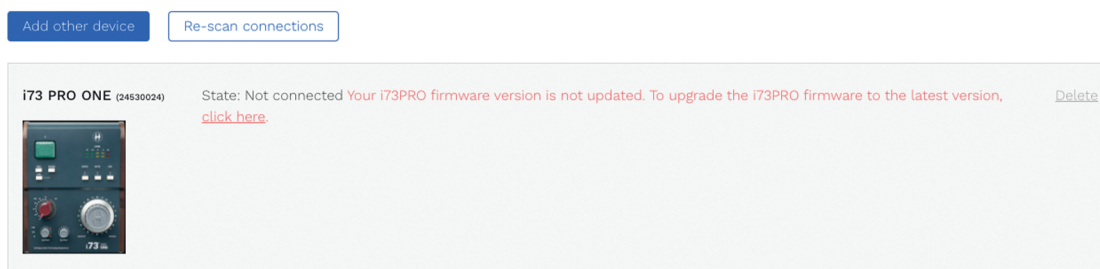
1. <https://users.heritageaudio.com> にアクセスし、ダッシュボード (dashboard) の MY HARDWARE (マイハードウェア) に移動します。



2. i73[®] PRO ONE をコンピューターに接続し、電源をオンにした状態で、“Add device” (デバイスの追加) をクリックします。すると HeritageSync tool がお手元の i73[®] PRO ONE を登録するための動作します。それに失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。



3. i73[®] PRO ONE のシリアル番号 (ユニットと底面に記載) を入力し、“Add” (追加) をクリックでします。

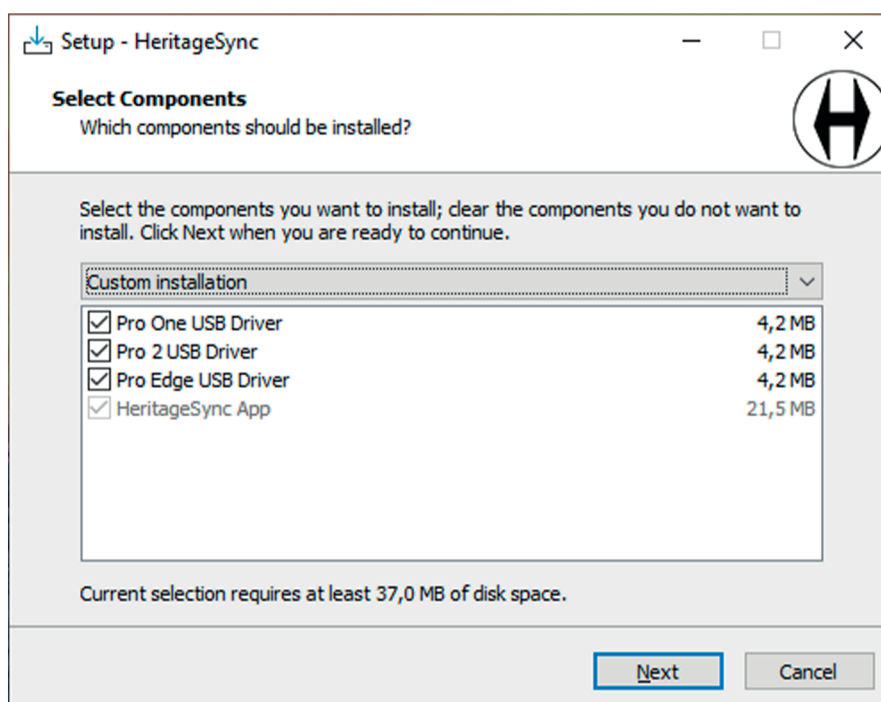


4. 以降に表示されるソフトウェアの情報に従って、登録を完了します。

SOFTWARE

Windows 環境での HERITAGE AUDIO MIXER のインストール方法：

1. <https://users.heritageaudio.com/my-account> にアクセスします。
2. ユーザー名 (username) とパスワードを入力してログインします。
3. ユーザーページから最新版の Heritage Audio i73[®] PRO MIXER for Windows をダウンロードします。
4. ダウンロードした .exe ファイルをダブルクリックし、実行をします。
5. インストーラーを起動して、指示に従ってインストールを完了します。

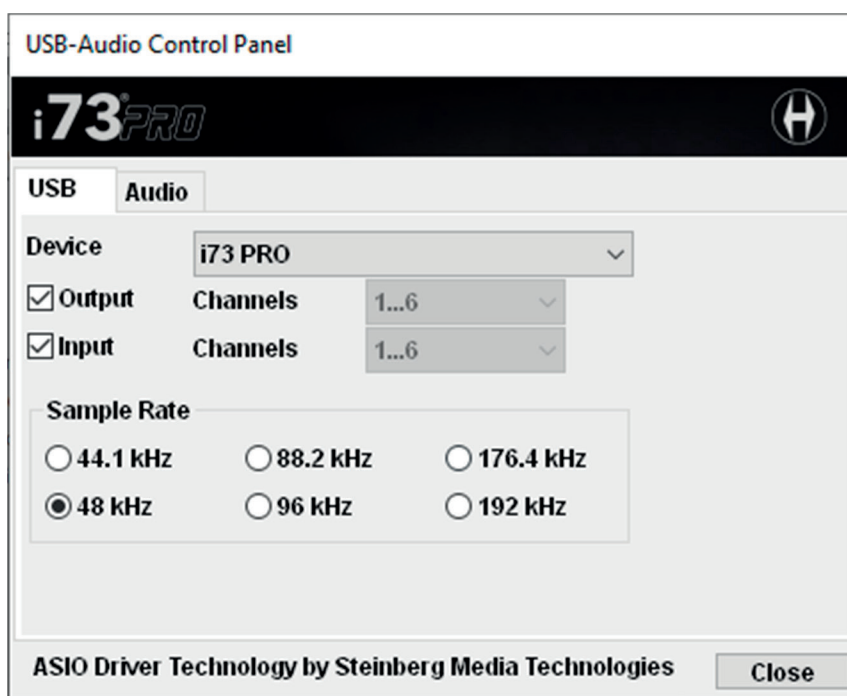


Windows 環境での HERITAGE AUDIO MIXER の設定 :

1. i73[®] PRO ONE をコンピューターに接続した状態で、Heritage Audio MIXER を起動します。

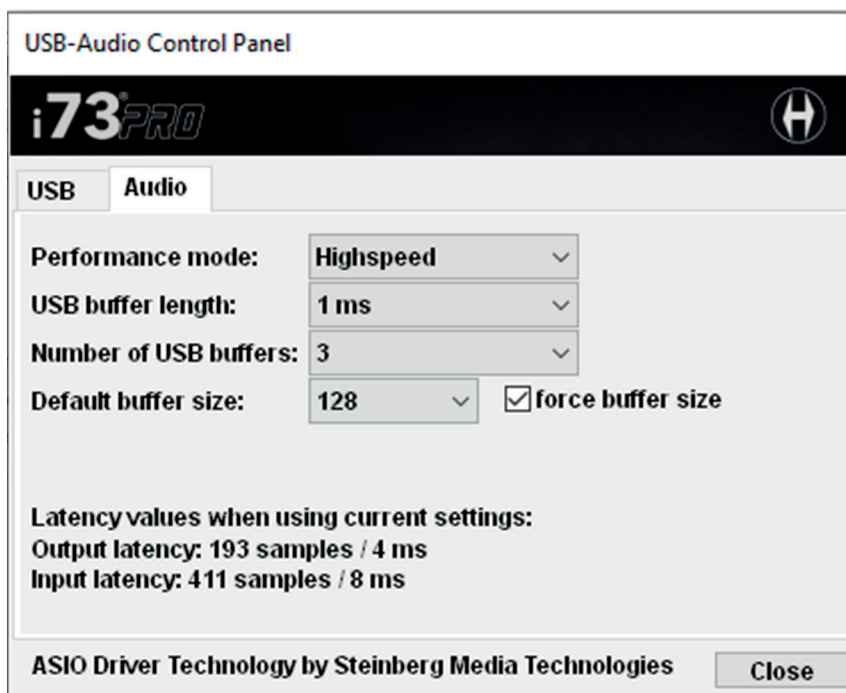


2. ご利用の DAW を起動して、その環境設定を開き、オプション / 設定 / オーディオドライバーなどのオーディオ設定から i73[®] PRO Control Panel を開きます。



3. i73[®] PRO を入力および出力デバイスとして選択します。

4. このコントロールパネル（Control Panel）で、プロジェクトのサンプルレート、レイテンシーとバッファサイズの設定が可能です。



5. コントロールパネルを閉じた後、バッファサイズを即座に変更する場合は、「force buffer size」にチェックを入れます。それ以外の場合、新規設定したバッファサイズは、DAW と Heritage Audio MIXER を閉じた後の次のセッションにのみ適用されます。

i73[®] PRO インターフェースの使用を開始する前に、他の機器との適合性を確認してください。i73[®] PRO は業務規格の非常に高い出力信号を提供しますが、すべての機器がこの規格の信号レベルに適しているとは限らないため、場合によっては出力レベルを下げることをお勧めします。



Heritage Audio MIXER を開き、上部のドロップダウンメニューにアクセスします。一覧にある Output Level Calibration（出力レベル調整）で、定格出力レベルを +24dBu、+18dBu、または +12dBu に設定できます。

i73[®] PRO の優れた高出力レンジは、入力レンジが低い機器と組み合わせた場合に倍音歪を引き起こす可能性があります。フルボリュームで出力に倍音歪が確認された場合は、Output Level Calibration を +18dBu または +12dBu に下げる必要があるかもしれません。

フルアナログ体験 (FULL ANALOG EXPERIENCE) とは？

録音スタジオの黄金期は、ツール数が物理的に限られていて、量よりも質を優先した収録とモニタリングが行われていました。そのため、ミュージシャンとエンジニアは技術よりも音楽に集中することができました。

60年代と70年代のクラシックレコーディングによって生まれた、我々の知る「ヒットソングの音」は、ミュージシャン、優れたマイク、強力なプリアンプ、EQ、コンプレッション、そして特徴的な温もりを持ったテープレコーダーがあれば十分でした。



これが Heritage Audio の「Full Analog Experience」の考え方です。この音楽制作の原点に再び焦点を当て、あらゆるミュージシャンやエンジニアがどこでも真のスタジオ品質で録音できる、すぐに使える完全なツールセットを提供します。

HERITAGE AUDIO MIXER (ヘリテージオーディオミキサー) を知る:



高級で肉厚芳醇な73スタイルのプリアンプを備えたプロフェッショナル仕様のインターフェースを作成することは、ミッションの半分に過ぎませんでした。エンジニアやミュージシャンに直観的で実用的なモニタリングツールを提供する必要があると感じ、素敵な機能を多く備えた Heritage Audio MIXER を開発しました。

私たちは、最も先進的で低レイテンシのモニタリングツールを一から開発しました。このことで、i73[®] PRO ONE インターフェースを使用した、フルアナログ体験の収録が実現しました。

Heritage Audio MIXER は、i73[®] PRO ONE 内で動作するDSPプラグインを73スタイルのプリアンプに取り込み、チャンネル1および2のドライまたはウェット信号を録音することができます。ここで言うドライとは、信号がプリアンプを通過し、ご利用のDAWに直接送信されることを意味し、ウェットとは、信号がプリアンプと各チャンネルに取り込まれたDSPプラグインを通過(処理)してからDAWに送信されることを意味します。また、モニター目的でAUXチャンネルの1つにサードパーティ製のプラグインを取り込むこともできます。その他にも多くの機能が用意されています。



画面左側から見ていきましょう。ここにはi73インターフェースの入力チャンネルがあります。この入力は、2つのトラックに同時録音することが可能で、一方は処理された信号、もう一方は処理されていない信号を扱います。このことでユーザーに、迅速作業のために処理された信号と、後で完全処理できるクリーンな未処理のバージョンを保持することができる、これまでにないオプションが提供されます。

ここには音量調整のフェーダーの以外に、信号がステレオ音像のどこに定位されるかの決定するためのパンポットもあります。

また、赤と青のAUXチャンネルに信号を送るための2つのAUXセンドコントロールもあります。これらのAUXチャンネルはモニタリング専用設計されているため、装填されたエフェクトは、DAWには録音されないことにご留意ください。

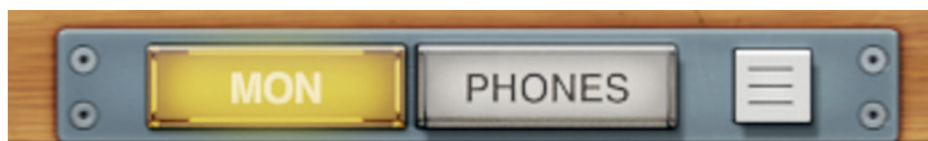
さらに、柔軟性を高めるために、これらのAUXセンドコントロールは必要に応じて、それぞれを独立してフェーダー前段 (PRE/プリ) または後段 (POST/ポスト) に切り替えることができます。

各チャンネルの最上部には、このインターフェース専用に設計された素晴らしいDSPプラグインを装填するためのスロットが4つ用意されています。任意のスロットをクリックすると、利用可能なプラグインがリスト表示され、選択することができます。プラグインの装填後、プラグインのグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を表示するには、そのプラグインスロットをダブルクリックします。装填されたプラグインを削除するには、スロットを右クリックします。

パンポットのすぐ下の、SOLO (ソロ) とMUTE (ミュート) ボタンは、それぞれ、チャンネルのソロモニターと出力オフに使用します。ボタンの上にはそれぞれの機能の状態を示すインジケータがあり、オンにすると点灯します。

そのすぐ下には、3つの入力オプション (LINE、MIC、DI) を示すインジケータがあり、その点灯でどの入力を選択されているかを示します。

このミキサーのもう一つのチャンネルも、同様のミキサーチャンネルとしての装備を有しますが、このチャンネルは、ライン入力専用のINPUT 2を扱いますので、DSPプラグインのスロットやLINE、MIC、DIのインジケータライトはありません。



Heritage Audio MIXERの最も優れた機能の1つに、MON (モニター) とPHONES (ヘッドフォン) の出力に対して、それぞれ異なるモニタリングシーンを簡単かつ迅速に準備できる能力があります。このことで、録音ソースの演奏者は、自身のパフォーマンスを引き出すために適したミックスを得つつ、操作する側のエンジニアは確認に必要なものを正確に聴くことができます。

これらのMIXERインスタンスやシーンは、簡単に保存とりコールが可能で、異なる用途に対応するために必要なときに即座にセットアップできます。これらの機能はMIXERの最上部に位置し、隣にいくつかの設定にアクセスするためのドロップダウンメニューがあります。

メニューは、設定のプリセット保存と呼び出しのためのコマンド、i73インターフェースのLEDメーターに表示される入力または出力の切り替え (Interface VU source)、全体のDSP使用率表示、およびMONO/MUTE/DIMボタンがどの出力 (MON、PHONESのいずれかまたは両方) に影響を与えるための選択にアクセスします。

また、i73 PROインターフェースの定格出力レベルを調整して、他のセットアップとのレベルの最適化を図ることが出来ます。ここで出力レベルを+24dBu、+18dBu、または+12dBuに設定できます。

ドロップダウンメニューの最後は、DSP負荷をリアルタイムに確認するためのコマンド (DSP Workload) にアクセスできます。





画面右上は、実際のモニタリングをコントロールするセクションです。ここでは、ハードウェアと同じ、同心ノブで、MONITOR (モニター) と PHONES (ヘッドフォン) の出力ボリュームを個別設定できます。

このセクション右側には、HEADPHONESのモニターソースを設定する、二方向トグルスイッチがあります。ここで、モニターミックス (MONITOR) と同一の内容か、完全独立したヘッドフォンミックス (PHONES) を選択できます。

セクション左側には、i73のMONO、MUTE、DIMボタンがあり、それぞれにインジケータライトが付いています。これらは、ハードウェアのi73ユニットと連動し、相互「反映」します。従いまして、ここで行われた変更はハードウェアには追従し、その逆も然りです。

このセクションの最後の要素は、モニター機能のオン・オフです。通常使用時は、ACTIVE (有効) ポジションにし、このインターフェイスに外部のモニターコントローラーを接続している場合は EXT. MON (外部モニターコントロール) に設定します。EXT. MONに設定した場合場合、PHONES コントロールは通常通り機能しますが、MONITORコントロールは無効になり、出力がフルボリュームで送信されます。

EXT. MONを有効にした際、外部モニターコントローラーにモニター信号をフルボリュームで送信するため、に非常に高い出力を突然送信の可能性を防ぐために、注意が必要です。従いまして、この変更を受け入れる前に警告ウィンドウが表示されます。接続先のモニターコントローラーの音量を下げて、大音量が出ないことを確認してから、変更を受け入れてください。



ここで紹介する最後のセクションは、右下のMASTER(マスター)です。追加のAUXチャンネルには、Heritage AudioのDSPプラグインを装填することが可能で、さらにモニタリング目的で頻繁に使用するお気に入りのネイティブプラグインも使用できます。これは、演奏者がトラック収録する際、より良いパフォーマンスを引き出すために、できるだけ快適なモニターを提供することが非常に重要であるため、大変便利です。

AUXチャンネルのプラグインボックスを右クリックして、コンピューターにインストールされているVST3プラグインが一覧表示され、選択したものが装填されます。



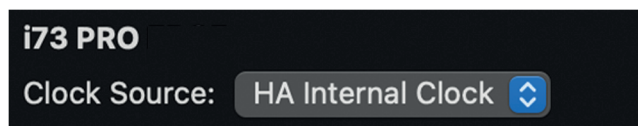
ここにはLOOPBACK(ループバック)チャンネルもあり、コンピューターからのオーディオストリームを追加することができます。適切な設定方法については、このマニュアルのHeritage Audio MIXERの設定に関する項目に記載してあります。

もちろん、MASTER(マスター)フェーダーとそれに対応するMUTE(ミュート)ボタンもあります。

サンプルレート (SAMPLE RATE) とクロックソース (CLOCK SOURCE) :

Heritage Audio MIXER は、システムに設定されているサンプルレートおよびクロックソースを自動的に検出します。MIXER の動作中にサンプルレートの変更（例：DAW でのサンプルレート変更）を検出すると、MIXER はそれを認識し、再起動を求めます。再起動後、MIXER は新しいサンプルレートで動作するようになります。

クロックソースについても、MIXER は起動時に使用されているソースを識別します。クロックのソースは、コンピューターのオーディオ MIDI 設定で簡単に変更することができます。



i73[®] PRO ONE のチャンネル一覧

コンピューター（および DAW）から見たデバイス内部の入出力ポート（USB チャンネル）です。

入力 概要

Input 1	チャンネル 1 のドライ信号入力です。
Input 2	チャンネル 1 のドライ信号入力です。
Input 3	チャンネル 1 のウェット信号入力です。
Input 4	空のチャンネルです。（使用しません）
Input 5	ループバック（Loopback）の左入力です。
Input 6	ループバック（Loopback）の右入力です。

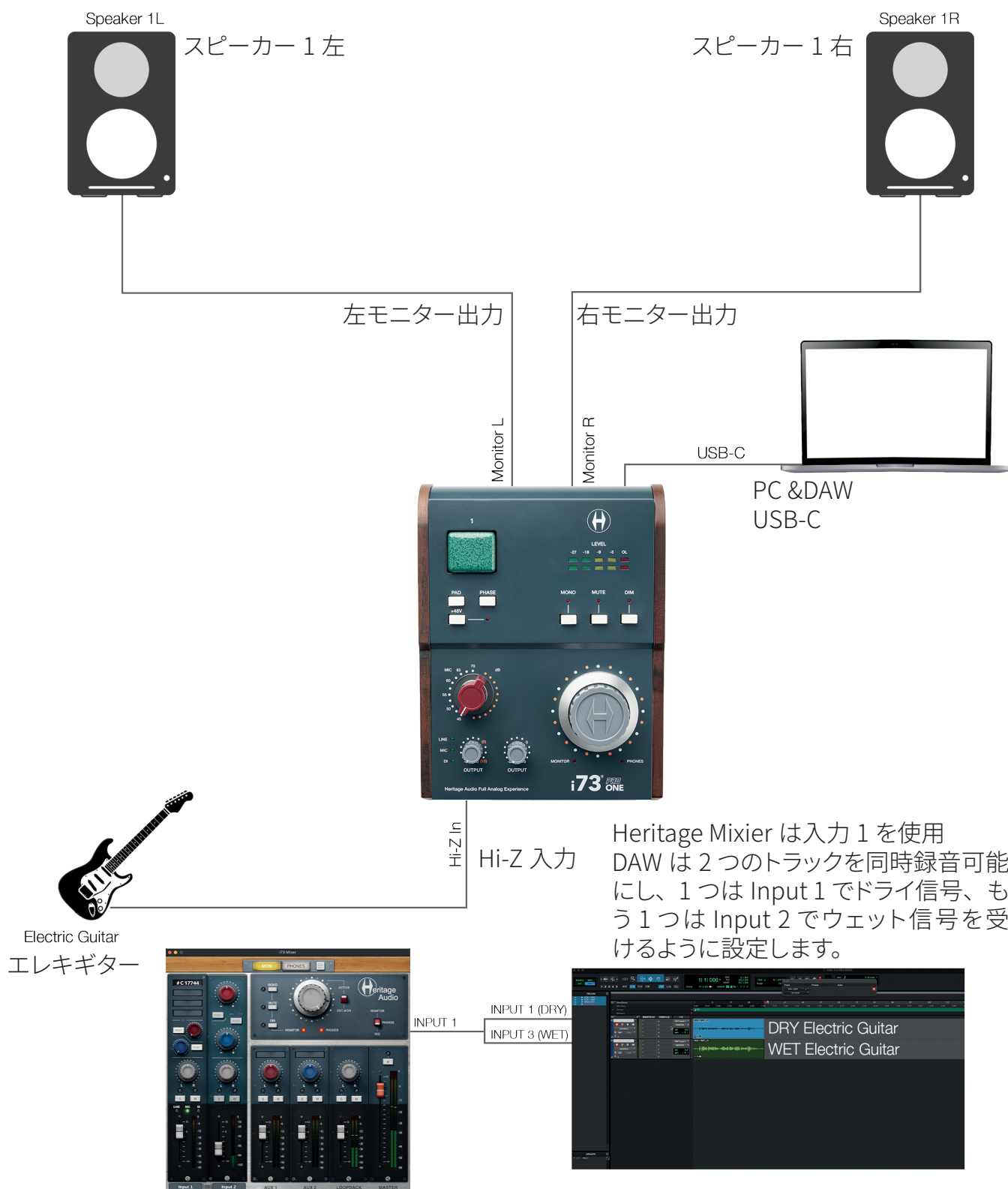
出力 概要

Output 1	左チャンネルのモニター出力（Monitor L）です。
Output 2	右チャンネルのモニター出力（Monitor R）です。
Output 3	3 番目の出力（OUTPUT 3）です。
Output 4	4 番目の出力（OUTPUT 3）です。
Output 5	左チャンネルのヘッドフォン出力（Phones 1 L）です。
Output 6	右チャンネルのヘッドフォン出力（Phones 1 R）です。

ギター収録（ウェットとドライ信号の両方）

INPUTS (入力) : エレキギターの D.I. レコーディング (ドライとウェット信号)

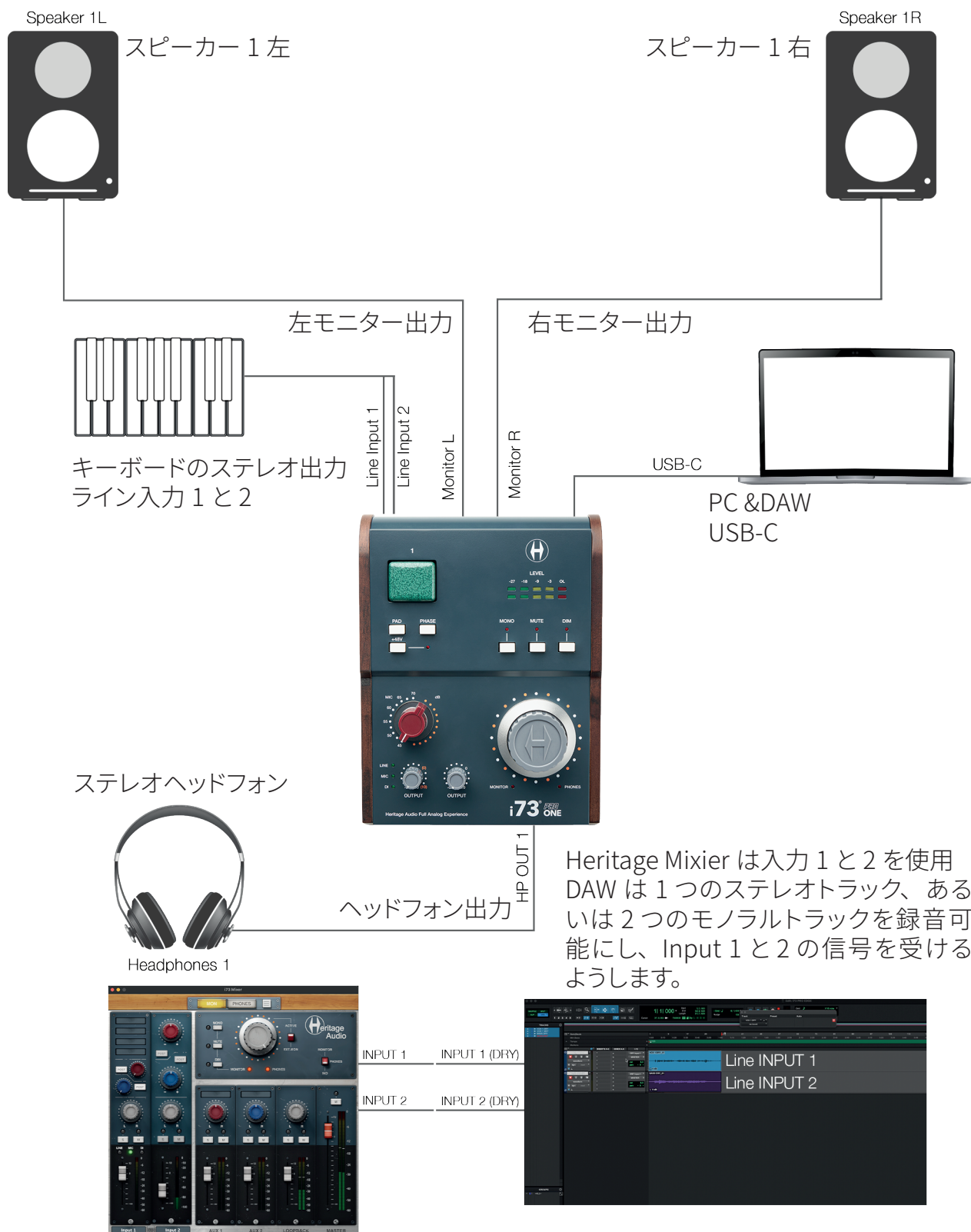
OUTPUTS (出力) : 1 ペアのアクティブ (パワード) モニタースピーカー



ステレオキーボードの収録（ラインレベル）

INPUTS（入力 1 と 2）：ステレオキーボード（ライン入力 1 と 2）

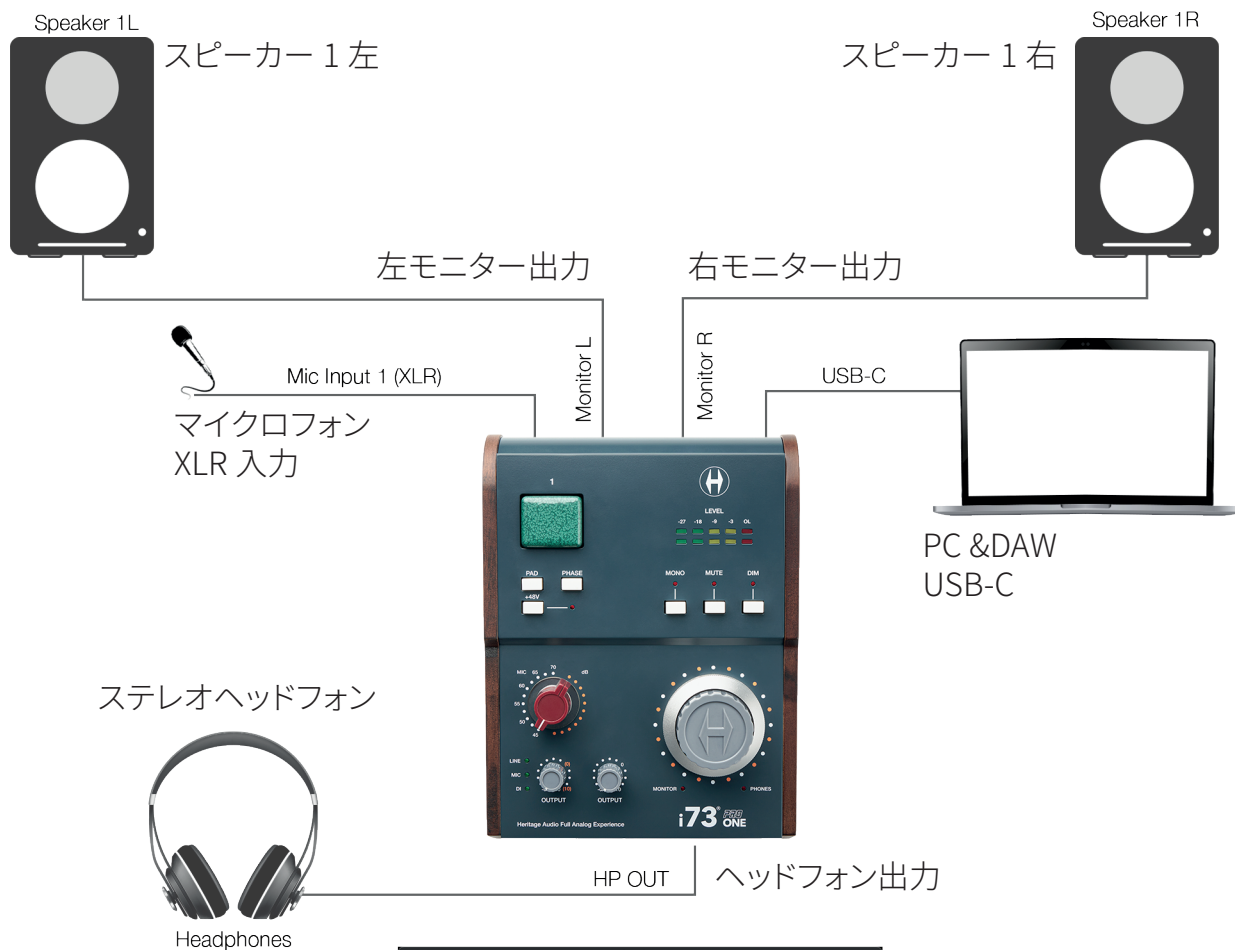
OUTPUTS（出力）：1 ペアのアクティブ（パワード） モニタースピーカーとステレオヘッドフォン



モニターにディレイプラグインを用いたボーカル（音声）収録（モニター用のエフェクトバランスを適度に調整）

INPUTS（入力）：マイクロフォンレコーディング（XLR 入力）

OUTPUTS（出力）：1 ペアのアクティブ（パワード） モニタースピーカーとステレオヘッドフォン



AUX 1 の POST ボタンをオンにして、ディレイへのセンド量を調整します。



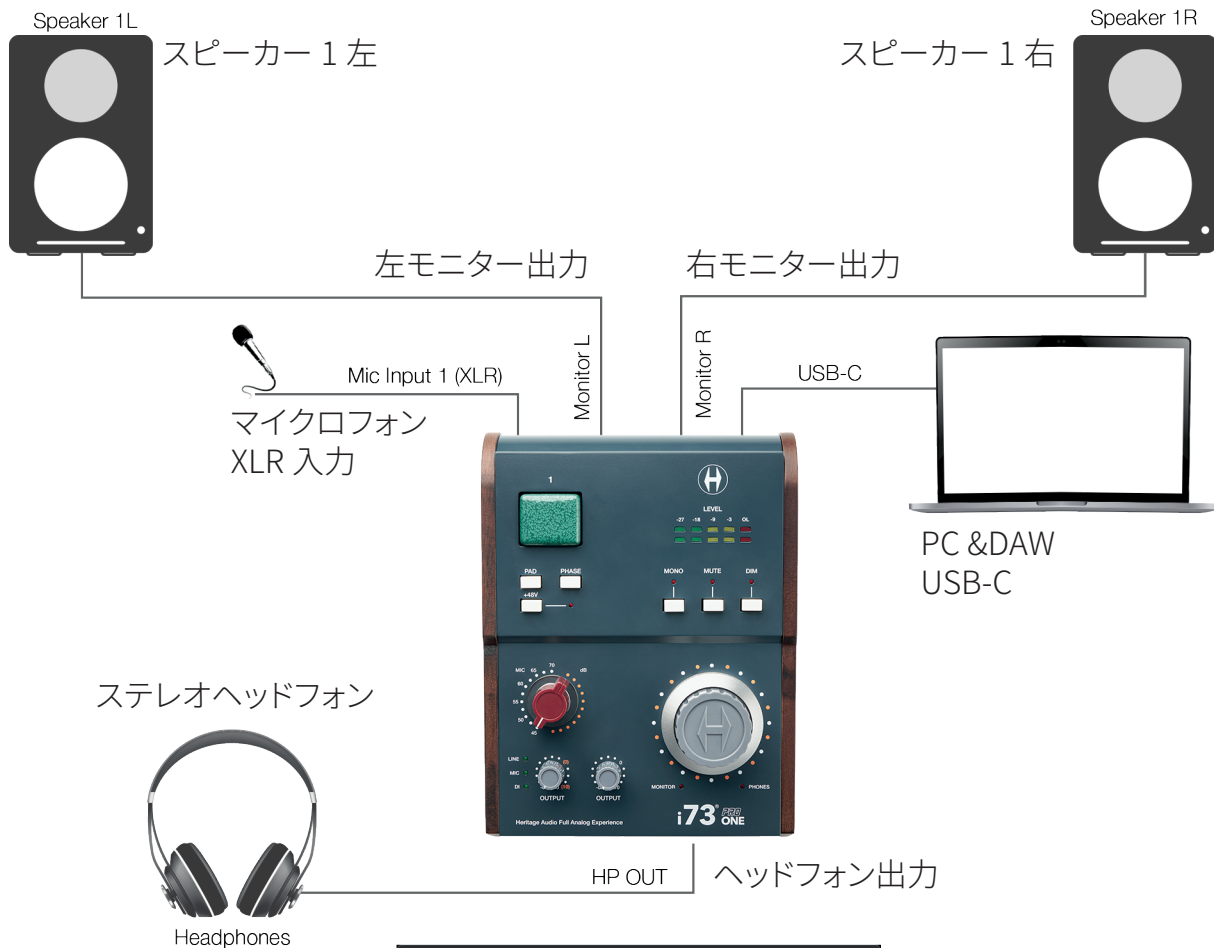
Heritage Audio TAPEOPLEX またはご愛用のディレイプラグインを AUX 1 のスロットに装填します。

* 一般的な AUX 「エフェクトセンド」 は通常、ポストフェーダーにして、特定のチャンネルからエフェクトプロセッサーへの信号を送ります。この場合、チャンネルフェーダーがメインミックスに送られる信号レベルと Aux センドに送られる信号レベルの両方を制御するため、チャンネルフェーダーが下がると、「ウェット」信号のレベルも「ドライ」信号のレベルと一緒に下がります。

モニターに AUTO-TUNE プラグインを用いたボーカル（音声）収録（モニター用のエフェクトバランスは 100% ウェットに調整）

INPUTS（入力）：マイクロフォンレコーディング（XLR 入力）

OUTPUTS（出力）：1 ペアのアクティブ（パワード） モニタースピーカーとステレオヘッドフォン



AUX 1 の POST ボタンをオフにして、PRE モードで扱い、Auto-Tune エフェクトへのセンド量を調整します。

Input 1 のフェーダーを一杯に下げます。



ご愛用の Auto-Tune またはピッチ補正プラグインを AUX 1 のスロットに装填します。

* このケースでは、エフェクト音のみをモニターするため、AUX センドはプリフェーダーにして、チャンネルフェーダー前のポイントでチャンネルからの入力信号を取り出します。そのため、チャンネルフェーダーが下がっていても、信号は AUX バスに送られ続けます。

i73[®] PRO ONE は USB クラスコンプライアントのオーディオインターフェイスで、この規格に準拠したコンピューター、タブレットあるいはスマートフォンを接続するだけで、ドライバーや特別なソフトウェアなしに動作します。

ただし、高度で柔軟なオーディオ環境と体験を実現するために Heritage Audio MIXER と i73[®] PRO ONE の最新版のファームウェアを通じた利用を強く推奨します。以下がそのためのシステム条件です：

macOS:

- 4 GB 以上の実装 RAM メモリ
- Intel i5 以降、または Apple Silicon CPU
- MacOS Catalina (10.15.7) 以降 *
- 300 MB 以上の空きディスク容量

Windows:

- 4 GB 以上の実装 RAM メモリ
- Intel i5 以降の CPU
- Windows 10 以降 *
- 300 MB 以上の空きディスク容量

対応 DAW**:

- Pro Tools
- Logic PRO
- Ableton Live
- Cubase***

* 記載しているバージョンよりも古いオペレーティングシステム (OS) でも動作する可能性があります。ただし、テストされておらず、公式サポートありません。また、記載しているバージョン以降でも全てのシステムでの動作を保証するものではありません。

** ここに記載されている以外の DAW でも、利用可能ですが、未テストのため公式サポートはありません。

** Cubase Driver HP は未サポートです。

- 2 x 入力 / 4 x 出力の USB-C オーディオインターフェイス
 - 1 x Class A 73 スタイルのプリアンプ。最大 70dB ゲインを持つスタジオ品位レコーディングを提供。XLR/TRS による MIC / LINE 入力と JFET DI によるハイインピーダンス (Hi-Z) 楽器入力。
 - 1 x TRS 仕様の LINE 入力。ラインレベルのステレオ入力に使用。
 - Heritage Audio MIXER によるリアルタイム処理と極めて低レイテンシーのダイレクトモニタリング。
 - 1 x (1 組の) アナログステレオモニター出力。TRS バランス仕様で、Heritage Audio MIXER を通じてコントロール。
 - 1 x ステレオヘッドフォン出力。モニター出力から独立した独自のキュー出力設定が可能。
 - 最大、32 ビット / 193kHz の録音、ミキシングと再生に対応。
 - +48V のファンタム電源、パッド、フェイズスイッチ。業務レベルの入力装備。
 - MONO、MUTE と DIM スイッチ。業務レベルのモニター装備。
 - 魅力的なクラシックヨーロッパピアノコンソールデザイン。
 - macOS と Windows 10 / 11 に対応。1 つのハードウェアが PC と Mac の両方で利用可能。
 - DSP によるフルアナログ体験を提供。極めて低レイテンシーのリアルタイム処理を実現。
 - 拡充し続ける Heritage Audio のエフェクトコレクション。Heritage Audio のアウトボードプロセッサと Heritage Audio の個人機材コレクションを用いたモデリング。
 - 専用ミキサーを通じたウェットとドライ信号の同時送信、DAW での同時録音。
 - クラスを先端を行く AD/DA 変換。
 - USB-C 接続。
 - Mini-DIN MIDI 入出力コネクタ。
-
- ダイナミックレンジ (マイク入力) : 116dB A weighted
 - ゲイン範囲 : 最大 70dB
 - EIN: -125dB
 - ダイナミックレンジ (ライン / 楽器入力) : 116dB A weighted
 - ダイナミックレンジ (ヘッドフォン出力) : 123dB 以上 A Weighted
 - 最大出力レベル : +24.0 dBu、最大 +12 dBu に下げることが可能
 - ダイナミックレンジ (モニター出力) : 125dB A weighted.

ここでは i73 シリーズの想像し得るトラブルとその解決方法について記載します：

問題	解決方法
LED に入力レベルしか表示されません。出力レベルはどうしたら表示できますか？	MIXER でレベルメーターの表示ソースを（入力から出力に）切り替えます。
DAW で受けたマイクロフォンからの信号が大きすぎます。	入力ゲイン（赤ノブ）または出力（グレーノブ）でレベルを下げます。
接続したコンデンサーマイクロフォンが機能しません。（音を拾いません。）	48V ファンタム電源がオンになっていることを確認します。
入力に接続したキーボードの音が割れる。ゲインを下げてでも割れる。	キーボードの出力が 1/4 インチの TRS フォンでライン入力に接続していることを確認します。マイク入力（XLR）や Hi-Z（ギター）入力ではないことを確認します。
入力 3 と 4 で適切なレベルを得ることができません。	入力 3 に装填しているプラグインが音量に影響しているかどうかを確認します。i73 Pro One では入力 4 は機能しません。
汎用の 12V DC アダプターを使用していますが、インターフェイスの動作が正しくないようです。	最低 30W / 12V DC のパワーサプライが必要です。
30W / 12V DC の汎用アダプターを使用していますが、インターフェイスが正常動作しません。	アダプターの極性がセンタープラス（+）、アウトマイナス（-）であることを確認します。
コンピューターがインターフェイスを認識しません。	コンピューターと直接、USB で繋がっていることを確認します。USB ハブを介していないことを確認します。
インターフェイスが反応しません。	システム設定で入力と出力が適切に設定されているかどうかを確認します。
インターフェイスと MIDI 接続するには？	ミニ MIDI（PS/2）の MIDI ブレークアウトケーブルが別途必要です。
ゲインを最小にしてもマイクロフォンの音声が割れます。	PAD スイッチをオンにして入力ゲインを 20dB 下げます。
ゲインを最小にしても DAW で受けた音声が割れます。	出力レベルを下げます。
モニター出力が通常よりも遥かに小さいようです。	モニター出力を 20dB 下げる DIM スイッチがオンになっていないことを確認します。

ここでの記載は、i73 シリーズ共通のため、一部利用できない機能に触れることがあります。ご不明な点やご質問がございましたら、弊社サポートまでご連絡をお願いします：

<https://hookup.co.jp/support/>

問題	解決方法
どのモニタースピーカーからも音が聴こえてきません。	MUTE スイッチがオンになっていないことを確認します。
モニタースピーカーから出てくる音楽の音像がとても狭く感じます。	MONO スイッチがオンになっていないことを確認します。
エレキギターやエレキベースをユニットの背面に接続したのですが、反応がほぼありません。	楽器は、レベルとインピーダンスがそれに適したフロントパネルの DI 入力を使用します。
PHONES 2 の音量調節ができません。	i73 PRO ONE には 2 番目のヘッドフォン出力の装備はありません。
i73 インターフェイスをオンにしましたが、音がありません。	MUTE モードで起動する設定になっていないことを確認します。
MIXER からサンプルレート競合 (sample rates conflict) の発生を示すウィンドウが表示されました。	MIXER を再起動します。起動後に新しく検知されたサンプルレートに適合します。
ユニットを登録する際に、シリアル番号を入力すると、接続エラーのメッセージが表示されます。	HeritageSync ツールが起動していることを確認します。起動していない場合は、ダブルクリックをして 1 分程度待ちます。
出力に倍音歪があります。	Heritage Audio MIXER のメニューから Output Level Calibration で、歪の発生がなくなるまで定格出力レベルを下げます。

ここでの記載は、i73 シリーズ共通のため、一部利用できない機能に触れることがあります。
 ご不明な点やご質問がございましたら、弊社サポートまでご連絡をお願いします：
<https://hookup.co.jp/support/>



www.heritageaudio.com